

The 12th Art Film Festival of

オープニング上映 聖なる映画作家、カール・ドライヤー

2007.12.5.Wed

+++++

サイレント映画時代は、映画独自の表現の追求が、劇映画、ドキュメンタリー、実験映画の別なく行われていました。後年、ジャン=リュック・ゴダールやジョナス・メカスら、多くの映画作家から敬意を表されたカール・ドライヤーも、ジャンルを越えた偉大な作家の一人といえるでしょう。本映画祭では、ドライヤー作品の中でも1920年代のアヴァンギャルドとの関わりが深い『裁かるジャンヌ』（1927年）と『吸血鬼』（1930-31年）の2本を特別にセレクトし、オープニングとして上映します。今日の細分化が進んだ状況では稀有となった、ジャンルを超越した地点でしか得られない透徹した映像美は必見です。



『吸血鬼』1930-31

特集_1 フレデリック・ワイズマン、ドキュメンタリーの極北

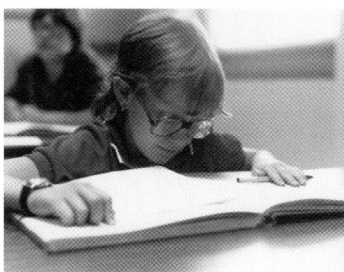
2007.12.6.Thu ++++ 12.9.Sun

+++++

フレデリック・ワイズマンは、1960年代にアメリカで興隆した「ダイレクト・シネマ」を代表する作家として知られ、現代のドキュメンタリーにおいて最も先鋭的な作品を作り続けている存在です。ワイズマンは社会が抱える厳しい現実を生々しく取り上げ、ナレーション等説明的な要素を一切廃し、虚飾なく提示することから、硬派の社会派ドキュメンタリー映画作家として一般的に評価されていますが、彼の作品はそうした地点に留まらず、組織や国家など人間が作り出した抽象的な概念へと肉薄してゆきます。それは、いわば事物を映し出すことを前提とした映像メディアが表象する限界への追求であり、それゆえにゴダールやストロブ=ユイレらに比肩するともいえるでしょう。ワイズマンの大掛かりな回顧上映は1998年以来二度目で、今回はそれ以降に制作された『メイン州ベルファスト』（1999年）や『DV』二部作（2001、03年）、愛知初上映となる『少年裁判所』（1973年）、『視覚障害』（1986年）など「Deaf and Blind」四部作の一挙上映に加え、代表作『チカット・フォーリーズ』（1967年）や『パレエ』（1995年）なども取り上げた、彼の多彩な作品世界に触れる絶好の機会となっています。



『チカット・フォーリーズ』1967



『視覚障害』1986



『メイン州ベルファスト』1999



『DV-ドメスティック・バイオレンス』2001

特集_2 愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品の15年

+最新第16弾プレミア上映 三宅流『究竟の地-岩崎鬼剣舞の一年』

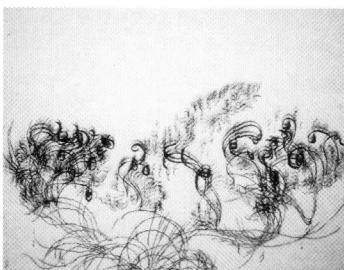
2007.12.11.Tue +++++ 12.16.Sun

+++++

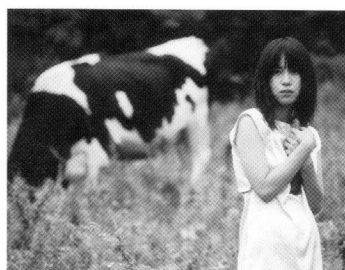
愛知芸術文化センターの15周年に合わせ、開館時より継続している「愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品」の、シリーズ全作品一挙上映を行います。「オリジナル映像作品」は、“身体”を統一テーマに設定し、様々な作家がこのテーマに独自の解釈からアプローチし、作家性を重視して作品を制作するシリーズです。これまでの作品は、海外の国際映画祭への出品や受賞を果たすなど、高い評価を得ています。「アートフィルム・フェスティバル」では、旧作をセレクトしたアンコール上映を何度か行っていますが、これまでの作品の歩みをまとめて振り返る機会は開館10周年の2002年以来で、この特集はシリーズの変遷やテーマの展開を目にする好機となるでしょう。また本特集の掉尾を飾る作品として、シリーズ最新第16弾となる三宅流監督『究竟の地-岩崎鬼剣舞の一年』（2007年）のプレミア上映を行います。



三宅流『究竟の地-岩崎鬼剣舞の一年』2007



石田尚志『フーガの技法』2001



七里圭『ホットtentとエプロンスケッチ』2005



辻直之『影の子供』2006